



# 木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2018年8月12日(日)9:30~12:00(晴)

参加者 一般:2名(うち子ども0名)、

指導員:5名

## テーマ 「森の中でじっくり観察」

このところ晴天続きで、園内の樹木ではコブシやアメリカハナノキなどで葉を落とすものが目立ち、キクイモ、セイタカアワダチソウなど草も葉が茶色になっているものも多く見られます。

まずは先月の大雨による増水の爪痕を見ました。中洲のヤナギや岸辺のセンダンには流水で倒された木が何本もありました。また、地上3m程の高さの枝に流されてきたごみが残っていることで、この高さまで水が来たことが分かります。

川原の芝生は葉が枯れて歩くと形が崩れますが、そんな中にカワラサイコの灰緑色の葉が目立ちます。根を土の中深く伸ばして水分を得ているようです。環境に適した植物は強いですね。

陽射しを遮るものがない川原を早足で移動し、キツネの巣穴を見に行きました。巣がある付近は今年のこの時期には、クスやオオブタクサに覆われ、立ち入ることができませんでしたが、今年は雨が少なかったせいか草丈が伸びず、歩いて行けます。先月見つけた新しい巣穴はまだ埋められ、別の場所にもう一つ巣が作られつつあります。公園管理者が埋めてはキツネが掘るといふイタチごっこはまだまだ続いています。

大野極楽寺公園では送電鉄塔の周囲で線下伐採が実施されていました。植生の遷移を見るうえで滅多にない機会です。伐採跡にどんな植物が芽吹いてくるか注目してみたいと思います。

その後、木陰のあるモクパラの池の周辺に移動し、昆虫を中心に観察しました。今年はなぜか木陰で休んでいるマユタテアカネの姿がわずかです。池でもまだチョウトンボが姿を見せず、コシアキトンボやショウジョウトンボも例年よりずっと少ないということです。トンボの仲間の発生に異常が生じていないか心配です。

樹液の出ている幹にはサトキマダラヒカゲ、カタテハ、カナブン、ヨツボシケシキスイなどが寄ってきていました。猛暑が続くと、木陰の少ないこの観察会では、コースの選定が一苦労です。(報告:齋竹)



(観察会のようす)

### <その他観察できたもの>

鳥:ツバメ、スズメ、ムクドリ、カワラヒワ、コゲラ(声)

虫:シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ウスバキトンボ、ミヤマアカネ、ゴマダラチョウ、ルリタテハ、ヒメアカタテハ、ヒメジャノメ、キタキチョウ、ナガサキアゲハ、ミ、ムラサキシジミ、イチモンジセセリ、モンシロドクガ、セグロアシナガバチ、クマバチ、オオモンツチバチ、アブラゼミ、ニイニイゼミ(声)、クマゼミ(声)、ツクツクボウシ(声)、ヨコヅナサシガメ、コアオハナムグリ、トノサマバッタ、ショウリョウバッタ、オンブバッタ



線下伐採



ミヤマアカネ



サトキマダラヒカゲ